



「なにわことばで

花

が咲く

春一番の 落語会



2018. 3/17(土)

14:00~16:00 (開場13:30)

場所 / 大阪樟蔭女子大学
円形ホール

入場料
無料

大阪にある大学——この特色を生かすため、国文学科は平成30年度から「大阪・上方のことば文化」と題する一連の科目群を新設します。大阪が本来持っている美質〈高い知性〉や〈深い情愛〉を、文学や歴史、芸能の中に発見し、発信する人材づくりを目指します。今回は大阪が誇る“美”のひとつである「船場ことば」をテーマとした講演と落語の催しを通して、伝統ある国文学科の新たな展開をご紹介します。

講演：「船場ことばと”はんなり”

田原 広史

大阪樟蔭女子大学 学芸学部 国文学科 教授

対談：「かい枝さんに聞く」

桂かい枝

落語家・大阪樟蔭女子大学 客員教授

森西 真弓 (聞き手)

大阪樟蔭女子大学 学芸学部 国文学科 教授
雑誌「上方芸能」元編集長

落語： 開口一番 笑福亭縁
「恪気の独楽」 桂かい枝

「船場ことばと"はんなり"」

今回は、「船場ことばと"はんなり"」と題し、上品な大阪弁についてお話します。現在、NHKの朝ドラ「わろてんか」でも描かれていますが、大阪と京都の文化や気質の違い、それがどのように船場ことばに反映されているのかについて解説できればと思います。

田原 広史



大阪樟蔭女子大学 学芸学部 国文学科教授(学科長)。
専門は社会言語学。年に一度くらい「秘密のケンミンSHOW」で大阪弁の特徴を解説している。

「かい枝さんに聞く」 対談テーマ「樟蔭ブランド今むかし」

長年、客員教授として本学の教壇に立つ桂かい枝さん。師匠が抱く大阪樟蔭女子大学のイメージとは？100年の歴史の中で培われてきた樟蔭ブランドについて、どんな印象をおもちなのか、何を伸ばしていけばいいのか。外から、そして内から、双方の視点で語っていただきます。

桂かい枝



落語家・文化庁文化交流使・大阪樟蔭女子大学客員教授。
1994年上方落語の五代目桂文枝に入門。1997年より落語の魅力の世界にも伝えたいと英語による落語の海外公演を始める。これまでに世界24カ国105都市で300回を越える公演を成功させる。その活動が評価され、2007年文化庁より文化交流使に任命。

森西 真弓



大阪樟蔭女子大学 学芸学部 国文学科教授。
雑誌「上方芸能」元編集長。
日本経済新聞に「歌舞伎評」「文楽評」を執筆。NHK「にっぽんの芸能」「古典芸能への招待」に出演。

中学検定教科書(英語)4種類に「英語落語」が取り上げられ、そのうち2種類に写真入りで登場している。文化庁芸術祭賞・NHK新人演芸大賞・咲くやこの花賞・繁昌亭大賞など受賞多数。翻訳を手がけた絵本「牛はどこでもモー!」は5万部を越えるベストセラーとなっている。

「恪気の独楽(りんきのこま)」解説

船場の本店の御察人さん、旦那の浮気にやきもき。お供をして戻ってきた丁稚の定吉から真実を聞き出そうとある仕掛けを施します。さらには旦那の気持ちを探ろうと定吉に三つの独楽を回させますが……。はんなりとした船場ことばで描かれる女性の恪気(嫉妬)、さて結末はいかに？

笑福亭縁 (ゆかり)



2014年3月本学国際英語学科卒業。同年4月より笑福亭松枝師匠に弟子入り。現在は女流落語家として活躍中。カリキュラムに「英語落語」の授業があるから樟蔭への進学を選んだ(とは本人の談)。

申込締切

3/10 ±

定員

150名
(先着順)



HPからお申込み

PCからHPIにアクセスし、公開講演会ページの申込フォームに必要事項をご入力の上、送信して下さい。



【HP】<http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/beautiful>



FAXでのお申込み

お名前(フリガナ)、電話番号(ご自宅・携帯)、FAX番号、ご住所、Eメール、ご職業を記載の上、
FAX:06-6723-8302 にご送信ください。

お申込み方法

交通アクセス

近鉄奈良線「河内小阪駅」下車 西へ徒歩4分(300m)
JRおおさか東線「JR河内永和駅」下車 東へ徒歩5分(400m)

